

別記様式（第3条関係）

会 議 録（1）

会議の名称	第2回桶川市地域公共交通会議	
開催日時	平成29年1月30日（月） （開会）午前9時30分・（閉会）午後12時15分	
開催場所	桶川市地域福祉活動センター3階 集会室	
主宰者の氏名	小野克典（桶川市長）	
議長の氏名	松本幸司（桶川市副市長）	
出席者氏名 （委員）	1号委員：松本幸司 2号委員：長南克幸、高橋直樹（代理：石倉実希雄）、山崎俊明、鈴木貴大 3号委員：熊谷恵一、小谷彰治（代理：佐藤学） 4号委員：鶴岡洋 5号委員：高原昭（代理：藤田茂） 6号委員：新井隆喜、仲又清美、新井孝雄、佐藤正廣、梶山修、三澤みどり 7号委員：柳瀬光輝 8号委員：金子秀和 9号委員：岡村敏之、相沢興（代理：山崎充）、久保田浩二、富岡洋（代理：綿貫真一）、畦地英樹、鳴海太郎	
欠席者氏名 （委員）	3号委員：高橋弘之	
説明員氏名	ランドブレイン(株)：太田真一、瀬戸慎一	
事務局職員 職名及び氏名	安心安全課：課長・折原和彦、主査・中野栄司、主事補・虻川海 オブザーバー 高齢福祉課：主査・山田由紀野	
会 議 事 項	議 題	(1) 第1回会議の指摘事項、意見について (2) 桶川市における公共交通に関わる課題・方向性について (3) 市内循環バス等見直し検討スケジュール（案）について
	決定事項等	第2回は、桶川市の公共交通の課題・方向性に関して議論を行ったものであり、決定事項は特になし。
配布資料	委員名簿・座席表 資料1 第1回会議の指摘事項、意見 資料1-1 市内循環バス「べにばなGO」の現状 資料1-2 市内の路線バスの現状 資料1-3 市内のタクシーの現状 資料1-4 市民からの意見聴取方法 資料2 桶川における公共交通に関わる課題、方向性（たたき台） 資料3 市内循環バス見直し検討スケジュール（案）	

会 議 録 ( 2 )

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
事務局	・ 本日の会議は、委員 24 名のうち 1 名の欠席。定員の過半数の出席のため、要綱に基づき、会議は成立となる。
議長	・ 会議は、原則公開となっているが、本日の議題で、非公開とする事項はあるか。
事務局	・ なし。
議長	・ 本日の会議は全て公開とする。
議長	・ 本日の傍聴希望者は。
事務局	・ 傍聴希望者はなし。
議長	・ 続いて議事録の署名人について。本日の議事録の署名人を、新井隆喜委員にお願いしたい。
各委員	・ 承諾
議長	・ 議題（1）第 1 回会議の指摘事項、意見について
事務局	・ 説明 ※資料 1
議長	・ 事務局からの説明に対し、バス・タクシー事業者の方から補足する点があれば順にお願いしたい。
委員	・ 西循環については、同一方向回りの運行となっていることから、利用者からは反対回りで運行出来ないのかという声を聞いている。
委員	・ バス、タクシーとも運転手の確保が難しいので、今の路線を維持するのが精一杯である。
委員	・ 資料では東武バスは 2 系統と記載されているが、実際には 3 系統あり、桶川駅から川越駅、桶川駅から神明町車庫行きがある。運行回数は、資料記載のとおりである。 ・ 東武バスの利用者数は、平成 24 年から平成 25 年にかけてマイナス 12, 000 人減少し、25 年から 26 年にかけては 7, 000 人ほど増加している。これは平成 26 年 11 月のベニバナウォーク開業によるもの。平成 27 年は 340, 000 人の利用となり、17, 000 人の増加となっている。これは一時的なもので、今年度の現時点では、前年に比べマイナスとなっている。

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・桶川駅から川越駅までの路線は、路線長が17kmある。10年ほど前は今の倍以上の運行本数を運行していたが、人口の減少、生産人口の減少等により利用者が減少し、運行回数は、現状のようになっている。特に下日出谷地区や川田谷地区は、住宅も多くなり、以前は利用者が多かったが、利用者は年々減少し、現在では昼間の利用は数える程度となっている。</li> <li>・乗らないから減らす、更に乗らなくなるという負のスパイラルに陥っており、乗降調査を行いながら、利用実態に合わせた再編をしている。</li> <li>・現状、桶川 - 川越路線については赤字路線である。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・路線の状況として、他社と同様に、利用者は年々減少して、収支状況は厳しい状況である。</li> <li>・桶川市内の路線については、運行上厳しいということもあり、今後どのような対応をしていくのか課題となっているため、資料としては提示できない状況である。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス事業者からの補足説明がありました。事前に事務局から市内循環バスの見直しにあわせて、何かしらの前向きな考えがあるか確認させてもらっていたが、各社とも収支状況が厳しいことから、現状を維持していくというのがバス事業者の考えということで理解いたします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 - 3は、現状をよく把握していただいた資料だと思う。</li> <li>・1台当りの回送を含めた走行距離は、平均として120~130km/日であり、これから料金を割り出すと、今は厳しい状態である。</li> <li>・免許返納者の支援については、料金割引を検討している。1割引でやっているところもあり、これから取り組むことを考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 - 3のとおりである。</li> <li>・売り上げが減り、乗務員の確保が難しい。求人数は増えているが、運転手は減っている。</li> <li>・企業が発行するチケットが、以前に比べて少なくなっている。</li> <li>・当社の取組みとしては、障害者の1割引、免許返納者への1割引、子育てタクシー協会に加盟して、子育てタクシーを行っている。また、介護タクシーも1台用意している。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 - 4について、市民からの意見徴収の方法について、区長会の委員から補足をお願いしたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民に密着しているのが区長会である。住民の意見を聞く方法として、アンケートなど色々な方法があるが、桶川市は、桶川川地区、加納地区、川田谷地区と大きく分けられており、地域性が非常に違う。桶川地区は、コミュニティバスの利用が少ないように見受けられる。加納・川田谷地区は、利用が多い。住</li> </ul>

議長	<p>民のニーズそのものが地域によって差がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのため、区長会としては、コミュニティバスについて漠然と意見を聞くよりは、もう少し骨子が固まった状態で、意見聴取を実施した方が良くと意見させていただいている。</li> <li>・前回の指摘事項に対する意見等の再整理、追加ヒアリングについて、ひととおり説明が終わりましたが、これに関して、質問、確認事項等があればお願いいたします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業者の方から、市民がどのように利用されているのかの説明があったので、それを踏まえて議論していきたいと思う。</li> <li>・こういう場の議論で難しいのは、桶川駅まで電車で来られて、工業団地など通勤で来られる方や市内で通勤されておられる方の意見は、区長会様を通じても、なかなかわからないことである。そういう方にもバスを利用してもらうとありがたいので、そういうところにも目を配りながら会議をすすめられると良いと思う。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題（２）桶川市における公共交通に関わる課題・方向性について説明をお願いします。</li> </ul>
説明員	<p>説明 ※資料２</p>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の会議でお示しした内容を整理する形でご提示し、それを受けの形でたたき台として再編方針(案)の説明がありました。今後とも路線バスは現状維持、さらにタクシーもあるということを前提に、空白地域を埋める方法としては循環バスを使い勝手を良くする方向で考えていきたいということ。それから循環バスの見直しについては、いくつかの考え方を具体的にあてはめながら検討していき、行政負担に関しては、年間５，０００万円強という現在の負担額を上限に考えていきたいということ。将来的には、循環バスを見直しても埋められないような高齢者対策といったところがあれば、その時にタクシー等の他の方法を考えるという方針のたたき台となっていると考える。これらについて意見交換したい。意見が有る方はお願いします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題について、今回①～⑤の課題があるが、その下に前回の課題として５つあるが、これを含めて、集約した課題として５つあるのか、それとも１０個の課題があるということか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の５つの課題は循環バスに限った課題としてまとめたものであり、今回の課題①～⑤は、前回の会議の中で市全体について議論していくべきという指摘を踏まえ、前回の５つの課題を含むかたちで、市内の公共交通全体の課題として再整理し、ご提示させていただいたものです。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>再編の方針のたたき台に、路線バスのルート及び運行サービスは、現状の水準を維持するものとするとの意見もあると考えるが、バス事業者あるいは、利用者としてはどうなのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスを現状維持とする考え方は、先ほど各事業者からも説明のあったとおり、各事業者の現状のお考えを確認し、踏まえたものです。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>公共交通の再編にあたり、現行の行政負担額を上限として見直しを行っていくと方針が書かれているが、今の行政負担額を上限として圧縮して、この見直しをやっていくとなると、議論が難しくなるのではないかと。住民の46%の方が料金を上げてもいいと回答がある中で、別の調査では、79%の方が100円のままでもいいという回答もあり、ばらばらの意見ではあるけれども、行政負担額の方針をここで決めてしまうような表現でなく、もう少し表現を工夫してはどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>たたき台の行政負担の上限額については、議会の方からの指摘を踏まえ、本日は、たたき台として提示させていただいたものです。生々しい金額を出すのか、もう少し表現を工夫し方針案を作成したい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の関係では、地域包括センターが、市内に4か所あるが、その施設の利用者からは、通うための足がないという声を聞く。そういう施設を利用する高齢者の意見を聞いてもらうことも良いと思うがどうか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者の意見に関しては、公共交通で対応するのか、高齢者対策として対応するのか対応の視点はいくつかありそうですが、話をお受けしましたので、今後そういった施設利用者の意向も聞いていきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>バスの利用については、市内の土地利用の関係が影響しているのではないかと。現在、加納地区では工業団地の造成が進められているなど、土地利用を変更しようとする動きがある一方、川田谷、加納地区では、調整区域であることから建築規制がされ、若い人が入ってこられない状況もある。そうした状況への対応も課題であり、この会議の中でも考えていってほしい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>加納、川田谷地区は、地域の状況から、色々と意向があるので、区長会を通じて、地域の意見を吸い上げたり、地域の現状等も確認していきたい。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>最近では、循環バスの車両の快適性が向上してきている。ノンステップやハイブリッド車両の導入等についてもバス事業者の</li> </ul>

	<p>意向を聞いて、メリット・デメリットについても議論に触れてもらった方が良くはないか。交通量が多い所でバス停が路側帯に設置され、そこで利用者が待っている箇所もあれば、屋根が設置されているバス停もある。バスを利用する側の環境についても、議論が必要ではないか。また、駅西口ロータリー内の混雑の問題もあり、それらの話もした方がいいと考える。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>バス停の環境、バス事業者のあり方については、バス停ごとの環境など事情も様々です。駅西口ロータリーの混雑については、今後の駅東口の整備とも関わってきます。どのような公共交通のあり方がいいのかを考えていくにあたり、中長期的な課題、短期的な課題を混ぜて議論するのは難しいと考える。そのため、循環バスを含めた公共交通全体の課題の中で、できるところからの課題解決をしていくことが必要と考える。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>桶川駅の始発の電車に乗るためには、公共交通がないことから自転車等を利用していると思われ、始発の時間が遅いという意見もある。始発の電車を利用する人たちがどのような交通手段で駅まで来ているのか、どのような状況なのかということも議論してよいと思う。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>JR始発を利用する人の状況や対応について、この会議でも検討できるものがあれば、皆様で話し合いをしていただきたいと考えます。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>前回の会議をうけた中で、すみ分けというのは、重要な課題だと考える。漠然とルートを変更すればよいか、また、福祉向上のために行政が何かやればいいのかというと、様々な問題が混在し複雑化してしまうが、結局どこかで重なり合う部分が見えてくる。そのため、視点を決めて議論していかないと結論が出ないのではないかと考える。</li> <li>桶川市の人口動態として、区画整理地内では、坂田の公共保留地を活用した公共施設の整備、区画整理事業による道路整備が進められ、建売住宅や、新たに新築住宅が建っている状況である。これから過疎化していくところへの対策はどうするのか。逆に人口が増えていく坂田、上日出谷などの地域への対策はどうするのか。ただし、市内における今の住宅は、車2台駐車できるスペースがある。桶川市に転居してくる若い世代は、2台自動車を保有する世帯が増えてくると考えると、細かく1人1人に対応する必要があるのかということも気になる点である。</li> <li>通勤・通学・買い物等の利便性の向上が循環バス「べにばなGO」の小規模なルート変更で対応できるのであれば、大きく変更する必要はないのではないかと考える。</li> <li>小針領家や倉田など過疎化、高齢化が進んでいる地域は路線バスもなく、交通手段が厳しいが、福祉行政で対応できるのではないかと考えるところもある。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>市では、子育て支援として、ファミリーサポートを実施しており、その中で移動支援として安価で塾への送りや学童、保育園の迎えなど子育ての部分では支援ができていますが、高齢者には何もないのが桶川市の課題である。</li> <li>交通手段の確保として、高齢者のいきいきポイント制度を活用して、元気な60から70代の高齢者によるボランティアを支援することを検討していくことも一つの課題と考える。ボランティアによる対応がいいのか、タクシー会社にそれを担っていただいて補助金を出す方法がいいのか。どちらにしても、利用者が割安で利用するための費用は行政が負担することになるので、タクシー事業者と連携した方がいいのかもしれない。</li> <li>他の委員さんからも話があったが、もっと絞った形で意見をまとめていかないと、ただ漠然とした会議が進んでいくだけではないかと心配する。</li> <li>路線バスと市内循環バスのカバーエリア、地域各々の高齢化率など色付けして重ねてみるなど、総合振興計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略を策定するときに提示したような資料を用意すれば、桶川市の困っているところなどが見えてくるのではないかと考える。</li> <li>桶川市では、ファミリーサポートとして子育て支援をやっている。他の自治体では、加えて高齢者支援も行っている。なぜ高齢者支援ができないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>高齢者への取組みが、なぜ桶川市ができないのかは、回答できないので、この場では差し控えていただきます。</li> <li>見直しにあたっては、事務局としてもすみ分けをする必要があると考えます。循環バスのルート等見直しを小規模でやれるならば、大掛かりに見直さなくてもよいという意見も一つであると考えます。</li> <li>高齢者・子育て・まちの活性化といった様々な視点から考えられる中で、桶川市として何がやりたいのかが委員に示せなければ、絞ったかたちでの議論ができないのではと考えます。そこで今回、絞ったかたちで議論するため、たたき台として方針案を提示させていただきました。</li> <li>今回、方針案について、委員のご了承が頂ければ、次回は方針案と併せて、具体的なルートの変更案もご提示し、よりテーマを絞った形で皆さまにお諮りしたいと考えています。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>路線バスと市内循環バスを合わせた図面を示してほしい。</li> <li>病院によっては、小さな診療所であっても利用者の送迎をしているので、それらの情報も調査してほしい。</li> <li>考えられる全部の課題に市が取り組まなければならないのか。アンケートの結果をみると、「たまに困っている」という人もあり、全てに対応する必要があるのかということも判断するためにも、調査をしていただきたいと思います。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>調査し、お示ししたいと思います。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・方針案にある行政負担額の上限という考え方は、大きな問題となってくると思う。</li> <li>・国では交通基本法ができています。今、少子高齢化が進む中で、移動手段の確保は、地方にとって大きな問題で、行政のやるべきこととして、国、県、自治体がそれぞれ考えていく必要があります。自治体レベルでこれ以上お金を出せないから、皆さんへの負担をお願いするという裏返しになる。矮小化するのではなく、大きな社会の問題として、国・県にも役割をお願いしていくべきと考える。この会議に国、県の担当の方も出席しているので、公共交通の在り方、進め方、考え方について、それぞれ意見をお聞かせいただけるとありがたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国、県の意見を聞きたいとのことですので。お願いします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の会議は、コミュニティバスをどうするのか、路線そのものをどうするのか等を議論するため、地域公共交通会議の枠組みで立ち上げられたと認識している。今の路線をどうしていくのか、維持の方法を検討していくならば、このまま進めていけると思う。</li> <li>・一方、先ほど出された意見を全部網羅しようとする、上位の計画となり、現在、国ですすめる地域公共交通網形成計画を策定し、桶川市としての方向性を示した方が良い。地域全体の公共交通網を考えていくのであれば、もう一つ別の内容として組み立てて、その中で考えていかれた方が良く思う。</li> <li>・そここのところを桶川市としてどう考えているのかによる。桶川市として、地域公共交通網形成計画を立てる予定はないのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在のところ予定はありません。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・そういう状況で、先ほど発言のあった道路状況や調整区域の話等まで踏まえてしまうと、難しいと考える。</li> <li>・当然、公共交通空白地域があったり、高齢者・子育て世代がいたり、地域によって実情が異なると思うので、それを全部加味するという事であれば、地域公共交通網形成計画を策定していった方が良く考える。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・今の路線をどうしていくのか、どう維持していくのか、どう変えていったらいいのか議論しようとしているのに対し、会議の内容が少々飛び越えた内容となった話が出ていると感じている。桶川市として、この会議で議論する範囲を、事務局でよく整理した方が良く考える。</li> </ul> </li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。それでは続けてお願いします。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内では、地域公共交通網形成計画を7市町村が策定しており、上尾市のように、更に再編実施計画を策定しているところもある。また、今年度3市で3月末を目指し計画を策定中である。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの意見を聞きましたが、まちづくり・福祉の観点など、公共交通だけでなく、横断してくるものも踏まえて進めていくのであれば、地域公共交通網形成計画が必要と考える。それがなく、手広く議論すると、まとまりのないものとなってしまう、幅広に広がってしまう、最終的にはどうなっていくのかも見えなくなってしまう恐れがある。きちんと計画を立てて、進めていくということであれば、柱を立てることになる。その場合、桶川市にとっての柱が何なのかというところで、福祉やまちづくりの視点が組み込まれ一つの計画になる。その計画に合わせて、路線バスをどうするのかを検討することになる。その中で、市内循環バスの役割として、路線バスを補完していくというところを確認しながら作り上げていくべきである。</li> <li>・路線バスと市内循環バスが一体となった公共交通マップの様なものがあるならば、路線バスとの競合回避についても、必要な区間や重複している区間についてはバス路線が頑張るなど役割分担を考え、結節点をどこにするのか等の議論にもなると考える。</li> <li>・この会議で、あまり拙速に動くよりは、今後2～3年後どうしていくのか、高齢化の問題についても、もう少し先を見据えた会議のあり方で、更には、今回は路線バスと市内循環バスの再編にとどめるのか、それとももう少し先を見越し、公共交通網形成計画を策定して、再編を考えていくのかという軸を決めた方が良く考える。</li> <li>・県の方でも、色々な補助金等を用意している。現在、策定している市町村の中には、県の新規の補助金を活用して網形成計画を策定することを目玉にしているところもある。</li> <li>・桶川市として、どの様な道筋で、最終的な終着点をどこにしたいのかが見えてこない、やりづらいところがあるが、そういったことも、この会議の中で話し合っていくことかと考える。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。説明いただいた内容に対し、ご意見等ございますか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・極端な話ですが、ルート、便数、料金のことを議論すればいいのか。この会議で何を決めるのかを、今一度はっきりさせてもらった方が良くかと考える。何故かという点第1回会議で中部運輸局の資料を配布して、色々な意見を言ってもらいたいということもあったので、色々発言させてもらった。もう一度、会議のスタンスをはっきりしてほしい</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もともと、循環バス再編の検討は、地域からの要望が多かったことや議会からの指摘を受けたものです。現状、埼玉県下では利用者数は多いが、職員による乗降調査結果では、あまり利用されていないバス停もあり、利便性が悪い面もあった。市の負担額の圧縮を図るべきという議会からの指摘もあったことから、より利便性を高めていきたいというのが発端です。</li> <li>・再編にあたっては、市が決めるということではなく、地域公共</li> </ul>

<p>委員</p>	<p>交通会議を活用して十分に議論し、決めていきたいと考えておりました。現段階では、より上位の計画である地域公共交通網形成計画の策定は、全く想定しておりません。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつか将来的には、地域公共交通網形成計画の策定が必要となってくる時があるかもしれない。この場で策定すると明言することは差し控えますが、この公共交通会議は、ある意味その事前の検討にあたるものではないかと考えます。</li> <li>・地域公共交通網形成計画を策定するとなると、市全体の更なる課題を確認しながらやっていく必要があると考えます。現段階では、公共交通としての課題は確認しております。今回は全てのことに取り組むのではなく、確認した課題を踏まえた循環バスのルート、便数、料金等の見直しにまずは取り組みたいというのが事務局の考え方です。</li> <li>・先ほど、本当に大幅に見直しする必要があるのかという意見があったが、運行事業者としてはフルモデルチェンジすることが怖い。</li> <li>・本日の資料の埼玉県内のコミュニティバスの状況の資料によると、この周辺で利用が多いのは、鴻巣市、上尾市、川越市、所沢市の順で、その次あたりに桶川市が多いので、まだまだ伸びしろがあると思われるが、これを何台のバスで運行しているのかを比較すると、桶川市では1台当たり7万人、年間輸送量は東京を除いた関東地方ではトップだと思う。鴻巣市は、1台当たり5万人、上尾市で1台当たり4万6千人となっている。</li> <li>・一般的に、少し、ルートや便数を変更すると、半年間10～15%減少する。その位、バスルートや時刻の変更は怖いものである。そういう意味で、慎重に行った方が良く考える。</li> <li>・収支率をみると、料金が、鶴ヶ島市200円、富士見市170円、鴻巣市・朝霞市150円。アンケート調査で150円にしてもよいという回答が46%ではあるが、もし、べにばなGOの運賃を100円から150円に上げた場合、利用されなくなる方もいるかもしれないが、そのまま利用してもらえれば、収支率は32.8%が49%ぐらいまではいくだろうと考えるし、そうなれば県内でトップになることも考えられる。こういった面からも変えるのは怖いということが、ご理解いただくと考える。</li> <li>・平成13年の運行開始において、当初計画にはなかったが、東西を結ぶ路線を作ろうと検討した結果、朝日地区を廻るルートとなった。当初、朝日地区ではほとんど利用がなかった。ところが、近年では、特に東西循環内回りについては、乗らないバス停は無いと乗務員から報告を受けている。</li> <li>・平成18年度ピークに比べ、利用者数は15%減少しているが、万遍なく利用してもらっていることから、変更するのが怖いという理由もわかると思う。</li> <li>・埼玉県の自家用車の台数は約310万台で、横ばいである。そういう中で、自動車販売会社は、自動車は売れないと考えてお</li> </ul>
-----------	---

り、別事業の展開も視野に入れている。

- ・付き合いのある自動車教習所に聞いたところ、この20年間で免許を取得する人口が4割減少したとのことである。今後、自動車免許保有台数は減少していくけれども、人口はそこまで減少しないとすれば、公共交通に依存しなければならない世代が増えてくる。高齢者の問題がクローズアップされがちだが、逆に若年層は公共交通がないと生活できなくなるという現状もあることもご理解いただきたい。
- ・桶川市は都内への通勤に便利な街であり、若い世代がパワーを養える場所だと考える。街のパワーというのは、そこにどういった方が居住して、どういう仕事をして、どういった税金を持ってくるのかということが大きいと考える。そのため、子どもの学習機会を増やさなければならないということからも平成13年時のダイヤを決定する際に通勤、通学路を考慮した結果、べにばなGOは、都内へ通学し、クラブ活動をして帰れるように、21:30までの運行ダイヤを決定した経緯がある。そういったことも考えながら、べにばなGOをどうするのかを考えてほしい。
- ・車1台保有すると年間60万円かかる。仮に毎日車を利用したとした場合、1日1,650円となる。タクシー利用は、ほとんどが短距離利用なので、毎日駅までマイカーを利用するならば、タクシーを往復利用した方が安い。
- ・毎日マイカーを利用される方は、ほとんどいない。例えば主婦の方であれば週2回程度。その場合、1回当り6,000円ぐらいコストがかかっていることになる。タクシー往復でそこまで利用される方はそんなにいない。
- ・どこで利用者の利便とコストがバランスするのか考えなければならないと考える。
- ・極論となりますが、バスもデマンドタクシーも365日24時間走ってほしいという議論が出てこないようにするためにも、数字で判断しながら考えていく必要がある。

議長

- ・ありがとうございました。他にご意見等ございますか。

委員

- ・この会議で、何を決めるのかということについて話がございました。矮小化してしまいますと、バスのルート、時刻、運賃、バス路線との調整をやり、おそらくそのようなことが決まっていく会議になるのですが、ただし、それを決める時に考慮していただかなければならないのは、まさに今日発言していただいたことであるので、個人的には色々発言してもらって良かったと考えます。今日の発言の中で、考慮する必要が無いというのは、全く無かったと考えます。
- ・その上で、バス及び乗合が得意とするもので、かつ必要なものは何かというところで、順位をつけていくと、例えば、こういう需要は、もしかすると循環バスではないかもしれないとか、新たにタクシーによる対応とする場合に、市の事業としてやるのか、メーターでタクシーに乗ってもらいタクシーの利用促進

	<p>を図るような政策を実施していくのか、そういうようなことに落とし込めるのではないかと考える。この会議は、落とし込んでいく会議ではないかと考える。その中で、この会議ではなく別のところで決めるべきと判断したものについては、別の所で受け止められるように、事務局の方をお願いしたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市には上位計画があるので、それにあつたものが、優先順位を考慮するときに必要なと考える。例えば、もし上位計画に、べにばなGOの運行当初には完成していなかった区画整理事業があるので、その地域をより手厚くしていくという考えが、市の政策としてあるのであれば、それは事務局からこうしたいと会議に提示もらった方がよい。</li> <li>・べにばなGOを大幅に見直すことのリスクについて、先ほど、委員が言われたことについては、同じように考えている。</li> <li>・べにばなGOは、バスが得意としている所を概ね受けていると考える。個々のバス停やルートで、全体として効率がよい所、悪い所があると思うので、考慮していく必要がある。</li> <li>・加えて、路線バスとのすみ分けについては、路線バスからべにばなGOに、べにばなGOから路線バスに代わるところは、排除しない方がよいと思っている。バスは変わらず来るがバスの色が変わったということはあっていいと考える。</li> <li>・予算については、議論を縛ることになると考えるが、議論の出発点としては悪くない。ただ、この5,600万円が移動に関する市の施策の上限としての予算とするのか、それとも公共交通としての政策としての上限とするのかでは全然違うので、そこをハッキリした方がよいのか、曖昧にした方がよいのかは、これから議論していくものとする。</li> <li>・網形成計画を策定する、しないについてどこかで判断していく必要があるのではないかと改めて感じた。これは、個人的には事務局が宿題として受け止めていただきたいと考える。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ありがとうございました。他にご意見等ございますか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バス停によって屋根やベンチがない所がある。高齢者にとって、バスを待つためには、屋根やベンチがあつた方がよい。場所の関係もあると思うので、全部でなくてもよいのでよろしくをお願いしたい。</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議題（3）検討スケジュール（案）について</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明 ※資料3</li> </ul>
議長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回で提示したスケジュール案に対して、考え方は変えておらず、事務局として想定していた時期の目安を付け加えるなどして解りやすくしたとのこと。特にご意見等ございますか。</li> </ul>
各委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・なし。</li> </ul>

議長	・全体を通してご意見等ございますか。
各委員	・なし
議長	・全ての議事が終了したので、進行を事務局に返します。
事務局	閉会

平成29年2月14日調整

この会議録の記載が真正であることを確認して、署名する。

議事録署名人

新井隆喜